

H-PAC第6回公開シンポジウム 将来展望編

いかにビジョンを作り、 実現していくか

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子

地域医療構想・次期医療計画

- 病床機能情報の報告・提供の具体的なあり方に関する検討会（12回・2012.11～2014.7）
- 地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会（14回・2014.9～2016.3）
- 医療計画の見直し等に関する検討会（仮称・今春～）
 - 医療計画における地域医療構想の位置づけ
 - 医療と介護の連携
 - 二次医療圏、基準病床数、対象疾病・対象事業等

住民参加は進んでいるか？

- 「地域医療構想策定ガイドライン」(2015.3)

地域医療構想の策定段階から地域の医療関係者、保険者及び患者・住民の意見を聴く必要があることから・・・タウンミーティングやヒアリング等、様々な手法により・・・



実態は地域によって参加の度合いに差が？

まだまだ課題山積

- 地域医療構想も医療計画も一般的には知られていない。“2025年問題”すらも
- 多くの人が自分の問題としてとらえないと地域は変わらない。構想・計画は実現しない
- 一部の人の関心→多くの住民の関心へ
- 情報が溢れる時代に「今は関心がないけれど知っておいてもらいたい情報」を届ける難しさ
- どう伝え、どう広めるかがビジョンの作成・実現の前提条件